

2022年2月10日

2022年（令和4）カーボンブラック需要見通し

2022年1月の内閣府月例経済報告によると、わが国の景気は新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況は徐々に緩和される中、設備投資は持ち直しに足踏みがみられるものの、個人消費、生産、企業収益は持ち直しの動きがみられている。

各種政策の効果や海外経済の改善もあり、持ち直しの動きが続くことが期待されるが、内外の感染症の影響や物流・供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。

一方、2022年の世界経済成長率見通しは、世界銀行が1月に4.1%と昨年6月の前回予測から0.2ポイント下方修正された。オミクロン株の感染拡大や物価高は大きなリスクとなっており、2021年の力強い回復が大きく鈍化していることから予断を許さない。

このような経済展望の中、カーボンブラック需要における主要需要先である自動車タイヤ需要について（一社）日本自動車タイヤ協会が、またゴム産業全体の新ゴム消費量について（一社）日本ゴム工業会が夫々2022年の需要見通しを公表した。

これによると、自動車生産台数は前年比18.0%増、国内タイヤ販売は同6.6%増と予想されている。一方、新ゴム消費量は自動車タイヤ・チューブで前年比8.2%増、一般ゴムで6.6%増、ゴム産業全体では7.9%増と予想している。

当協会では、これら（一社）日本自動車タイヤ協会と（一社）日本ゴム工業会の需要見通しをベースに、カーボンブラック輸出入の状況等を織り込んで、2022年のカーボンブラック需要の見通しを行った。その結果、カーボンブラック総需要は前年比6.4%増の757,840トンとなった。

なお、「需要見通しの指標」については添付資料の【表1】、「カーボンブラック需要見通し」については同【表2】、「輸入見通し」については同【表3】を夫々参照願う。

以上

【表1】 2022年需要見通しの指標

『見通し』の前年比は前年見込み比%

	2020年実績		2021年実績見込み		2022年見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
自動車生産 (千台)	8,068	83.3%	7,807	96.8%	9,209	118.0%
タイヤゴム消費 (トン)	863,280	81.0%	1,013,130	117.4%	1,096,210	108.2%
一般ゴム消費 (トン)	223,120	84.6%	239,570	107.4%	255,490	106.6%
新ゴム消費量計 (トン)	1,086,400	99.7%	1,252,700	115.3%	1,351,700	107.9%

【表2】 2022年カーボンブラック需要見通し

数量単位；トン、『見通し』の前年比は前年見込み比%

	2020年		2021年見込み		2022年見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
タイヤ	401,425	77.7%	471,105	117.4%	504,257	107.0%
一般ゴム	127,178	84.6%	136,555	107.4%	145,629	106.6%
ゴム用計	528,603	79.2%	607,660	115.0%	649,886	106.9%
非ゴム	40,218	82.9%	47,125	117.2%	49,954	106.0%
内需計	568,821	79.5%	654,785	115.1%	699,840	106.9%
輸出	47,418	89.6%	57,522	121.3%	58,000	100.8%
[内ゴム用計]	13,672	83.6%	17,564	128.5%	17,600	100.2%
総需要	616,239	80.2%	712,307	115.6%	757,840	106.4%
[内ゴム用計]	542,275	79.3%	625,224	115.3%	667,486	106.8%

【表3】 2022年カーボンブラック輸入動向

数量単位；トン、『見通し』の前年比は前年見込み比%

	2020年実績		2021年実績見込み		2022年見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
ゴム用	112,841	79.3%	136,687	121.1%	144,890	106.0%
非ゴム用	12,459	86.2%	14,153	113.6%	15,000	106.0%
合計	125,300	79.9%	150,840	120.4%	159,890	106.0%

以上